

平成 18 年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」申請（案）の骨子

1. 申請テーマ

「地域活性化への貢献（広域型）」

2. 取組名称

「地域の女性リーダー育成教育プログラム

「女性リーダー育成センター」によるファシリテーション型女性リーダーの育成と支援」

3. キーワード

女性リーダー育成講座、女性リーダー育成センター、

椋山女学園大学女性リーダー育成教育研究会、マネジメント能力、ファシリテーション能力

4. 取組の概要

本取組では、地域の女性関連機関・団体との連携の下、本学学生と地域の女性を対象に「女性リーダー育成教育プログラム」を展開し、本学学生に地域の女性リーダーに必要な知識・技能・態度を習得させるとともに、地域の女性リーダーの支援を行う。同プログラムは、コア・プログラムとしての女性リーダー育成講座（基礎講座：学内講座、応用講座：地域交流講座、発展講座：地域開放講座）と、そのサポート・プログラムとしての研究活動、情報ライブラリー、広報・啓発活動、相談・支援、地域女性懇談会から編成される。本取組では、今年 2 月に設立した「椋山女学園大学女性リーダー育成教育研究会」を母体に次年度より学内に「女性リーダー育成センター」を設置し、プログラムの円滑な遂行をはかる。また、本学学生の特性と時代の要請をふまえ、ファシリテーション能力の養成を意図しながら、総合的マネジメント能力を備えた女性リーダー（学生・市民）を育成する。

（下線部はキーワード）

5. 取組の趣旨・目的

本取組は、これまで本学が地域の歴史ある女子大学として学内外へ向け実施してきたさまざまな教育活動を統括・発展させたものである。平成 17 年度の調査によれば、本学学生には将来「仕事と家庭生活・地域生活を両立」を望む者が多いこと、また「思いやりがあり、自分の生き方のある」女性・人間を理想としている者が多いことが明らかとなっている。このような特性をふまえると、本学学生に対し、将来、企業の一員としてのみならず、地域における多様な組織において、ファシリテーション能力を活用しながらリーダーシップを発揮できるような教育を行うことは、意義あることである。また、ファシリテーション能力を備えた女性リーダーの育成は、現在、男女共同参画社会の実現にむけて、各地の女性センター等においても着手され始めた課題であり、今後、ますます地域における必要性が高まるものと思われる。

本取組では、このような趣旨に基づき「地域の女性リーダー育成教育プログラム」を開発した。すなわち、地域コミュニティやNPO、地元の企業、公的機関、各種団体などで民主的・協働的な人間関係に配慮しながらリーダーシップを発揮し、組織の運営・管理に貢献することによって、地域の活性化に寄与することのできる女性リーダーを育成・支援することを目的とした。

## 6. 取組の実施体制等

### 1) 目的を達成するための教育課程等(図1、表1参照)

本プログラムの教育課程は、コア・プログラムとサポート・プログラムから成る。

コア・プログラムとは「女性リーダー育成講座」であり、学内講座に基づく「基礎講座」(大学における既存の女性リーダー関連科目を体系化し、学生に受講を推奨するもの)、地域交流講座としての「応用講座」(地域の女性リーダーを講師に招くチャレンジモデルセミナー、地域の女性リーダーと学生とのワークショップ、学生のボランティア活動や地域のイベントや調査への参画を含む)、地域開放講座としての「発展講座」(地域の女性と本学学生を対象に開催される講座で、女性リーダー論講座、地域参画支援講座から成るキャリアアップ講座と、ファシリテーション講座、情報スキル講座から成るスキルアップ講座を含む)から編成される。

サポート・プログラムには、研究活動、情報ライブラリー、広報・啓発活動、相談・支援、地域女性懇談会の5つがある。地域女性懇談会については、地域の女性関連団体(財団法人 あいち男女共同参画財団、名古屋市女性会館(イーブネット)、名古屋市女性団体連絡協議会、なごやボランティア・NPOセンター)と連携関係を結び、情報交換や企画のアイデア交換等を行う予定である。

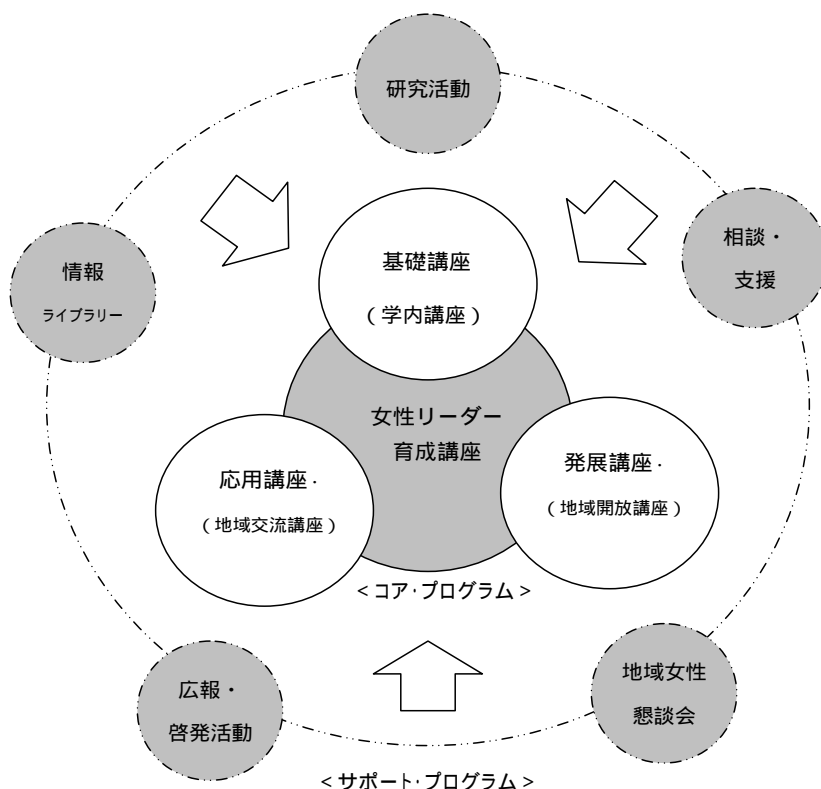


図1. 女性リーダー育成教育プログラムの構造

表1. コア・カリキュラム「女性リーダー育成講座」の概要

講座の種類等		前期	後期
基礎講座 (学内講座)	コア科目	女性論 (現マ) 女性論A(国際) ジェンダー論 (現マ) ジェンダー論(文情) ジェンダー・セクシュアリティ論 (人関) ジェンダー論研究1A(国際) ライフスタイル論 (人関) 女性と職業生活(人関) 女性史(人関) 女性と文学(人関) ジェンダーと国際社会(人関) 都市とジェンダー(国際)	女性論 (現マ) 女性論B(国際) ジェンダー論 (現マ) ジェンダー・セクシュアリティ論 (人間) ジェンダー論研究1B(国際) 女性とライフステージ(人関) 女性と社会(人関) 女性と教育(人関) 家族と人間 (人関) 家族と人間 (人関) 教育制度と社会(国際)
	関連科目	人間論(現マ) 生活の設計(現マ) 生活と法(文情) 現代女性文学(国際) 教職総合演習(生活、人関) 現代マネジメント論(現マ) 現代マネジメント実務研究A(地域・公共)(現マ) 現代マネジメント実務研究B(企業)(現代マ) NPO論(文情)	秘書入門(現マ) 生活の経営(現マ) 法と市民社会(現マ) 地理B(生活) 教職総合演習(生活、人関) 現代マネジメント論(現マ) 地域計画論(まちづくり論)(現マ) 社会調査論(現マ) 環境NPO(人関)
	関連ゼミ		
応用講座 (地域交流講座)	チャレンジモデル セミナー	女性起業家モデルセミナー 行政職員モデルセミナー	NPO設立モデルセミナー コミュニティリーダーモデルセミナー
	ワークショップ	NPO交流ワークショップ コミュニティリーダー交流ワークショップ	女性起業家交流ワークショップ 行政職員交流ワークショップ 男女共同参画推進機関交流ワークショップ
	地域支援・地域参画	ボランティア活動 イベント参画	ボランティア活動 社会調査参画
発展講座 (地域開放講座)	キャリアアップ講座	女性リーダー・マネジメント論講座	地域参画支援講座
	スキルアップ講座	ファシリテーション講座	情報スキル講座

注) 1. 基礎講座(学内講座)のコア科目名、関連科目名の後の( )内の表記は、開講学部の略称を示している(現マ:現代マネジメント学部、国際:国際コミュニケーション学部、人関:人間関係学部、文情:文化情報学部、生活:生活科学部)。

2. ワークショップの 印は当該機関で実施するワークショップへの学生の参加を含むものである。

出典等)基礎講座(学内講座)のコア科目および関連科目は、平成17年度椋山人間学研究中心「女性論」プロジェクトにおけるカリキュラム調査の結果(「女性論」プロジェクト活動報告, pp.31~34)を反映したものである。

2) 取組の実施体制 (図2 参照)

本年2月に設置された「椋山女学園大学育成教育研究会」の中に「GP推進室」を設置し、その下にコア・プログラム推進班とサポート・プログラム推進班を位置づけ、これを主たる取組機関として各プログラムを実施する。

また、地域女性懇談会には、懇談会責任者のほか、応用講座および発展講座の責任者も参画する。

なお、平成19年度に「女性リーダー育成センター」が設置されたのちは、「椋山女学園大学女性リーダー育成教育研究会」は発展的に解消し、「センター」が「研究会」の役割を引き継ぐ。

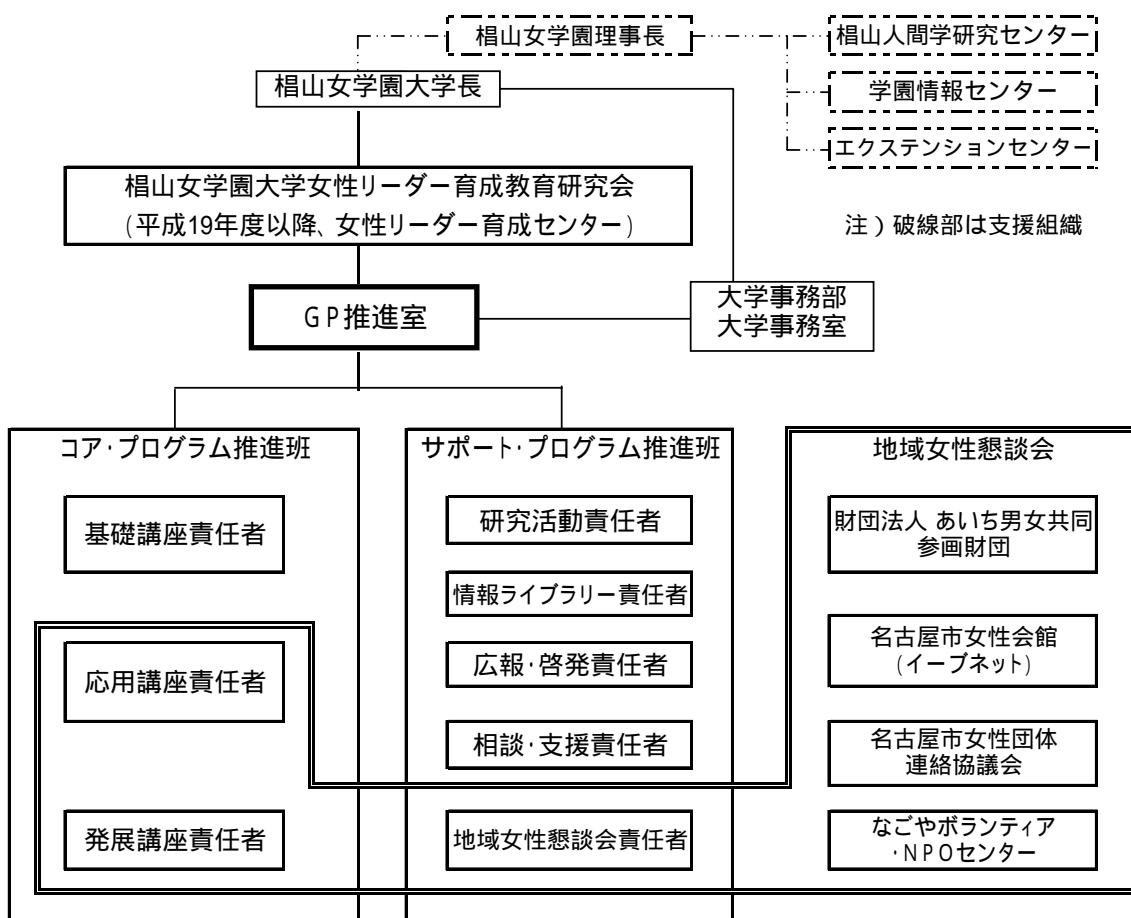


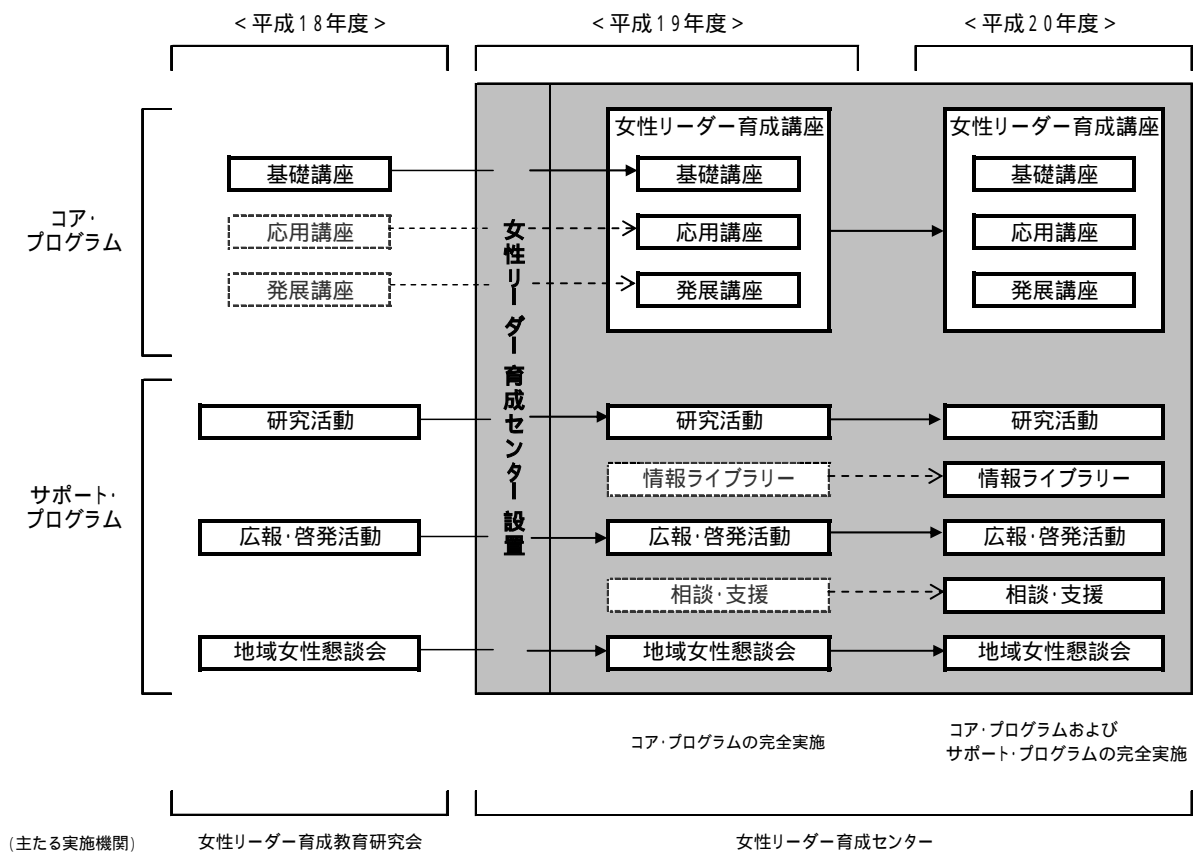
図2. 取組の実施体制

7. 取組の実施計画等（図3参照）

平成18年度は、「女性リーダー育成教育研究会」が主たる実施組織となり、コア・プログラム（女性リーダー育成講座）のうちの「基礎講座」を実施するとともに、サポート・プログラムのうちの研究活動、広報・啓発活動を開始し、地域女性懇談会の立ち上げも行う。同時に、次年度に備えて、地域女性懇談会の成果を活かしながら、コア・プログラム中の「応用講座」、「発展講座」の準備も実施する。

平成19年度には、学内に「女性リーダー育成センター」を設置する。以後は「研究会」に変わって、「センター」が本取組の主たる実施組織となる。この年、応用講座、発展講座を開始することによって、コア・プログラム（女性リーダー育成講座）を完全実施する。また、研究活動、広報・啓発活動、地域女性懇談会については前年度に引き続き実施し、一層の充実をはかる。加えて、次年度に備え、情報ライブラリーおよび相談・支援事業に関する準備を行う。

平成20年度は、情報ライブラリーの設置と相談・支援事業の開誌によって、全プログラムの実施をみる。



注)   はプログラムの実施を   はプログラムの準備を表している。

図3. 取組の実施計画

以上